

福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ

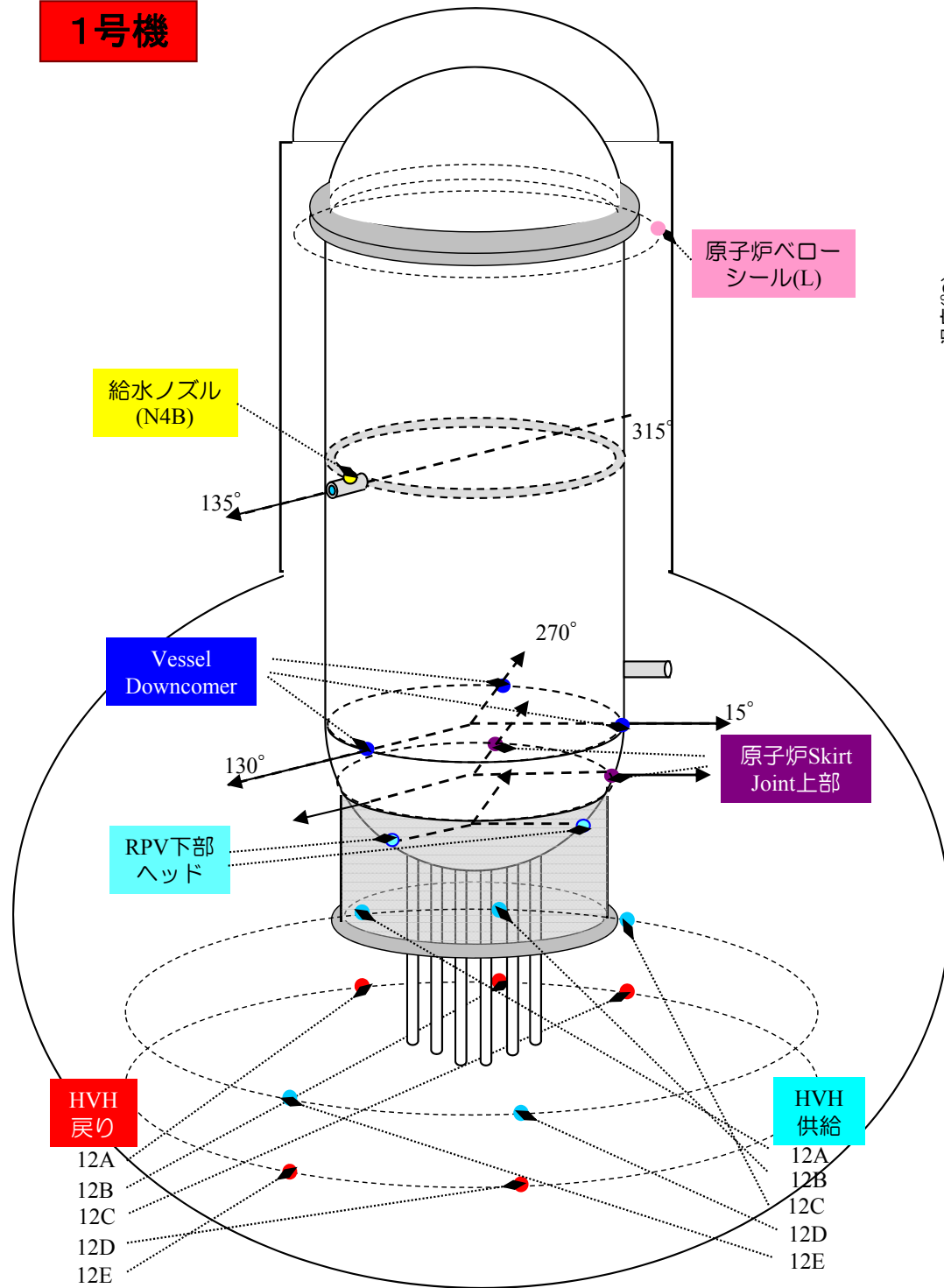
号機	1号機		2号機		3号機	
	3月29日	4月26日	3月29日	4月26日	3月29日	4月26日
原子炉注水状況	給水系：1.5m ³ /h CS系：1.5m ³ /h (3/29 11:00 現在)	給水系：1.4m ³ /h CS系：1.5m ³ /h (4/26 11:00 現在)	給水系：1.5m ³ /h CS系：1.4m ³ /h (3/29 11:00 現在)	給水系：1.5m ³ /h CS系：1.4m ³ /h (4/26 11:00 現在)	給水系：1.5m ³ /h CS系：1.4m ³ /h (3/29 11:00 現在)	給水系：1.5m ³ /h CS系：1.4m ³ /h (4/26 11:00 現在)
原子炉圧力容器 底部温度	VESSEL BOTTOM HEAD (TE-263-69L1)：14.6℃ 原子炉 SKIRT JOINT 上部 (TE-263-69H1)：14.5℃ VESSEL DOWN COMMER (TE-263-69G2)：14.4℃ (3/29 11:00 現在)	VESSEL BOTTOM HEAD (TE-263-69L1)：17.1℃ 原子炉 SKIRT JOINT 上部 (TE-263-69H1)：17.0℃ VESSEL DOWN COMMER (TE-263-69G2)：16.9℃ (4/26 11:00 現在)	VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H3)：20.1℃ RPV温度 (TE-2-3-69R)：20.2℃ (3/29 11:00 現在)	VESSEL WALL ABOVE BOTTOM HEAD (TE-2-3-69H3)：22.9℃ RPV温度 (TE-2-3-69R)：23.7℃ (4/26 11:00 現在)	RPV下部ヘッド温度 (TE-2-3-69L1)：18.4℃ スカートジャンクション上部温度 (TE-2-3-69F1)：18.5℃ RPV底部ヘッド上部温度 (TE-2-3-69H1)：17.1℃ (3/29 11:00 現在)	RPV下部ヘッド温度 (TE-2-3-69L1)：20.3℃ スカートジャンクション上部温度 (TE-2-3-69F1)：20.3℃ RPV底部ヘッド上部温度 (TE-2-3-69H1)：19.2℃ (4/26 11:00 現在)
原子炉格納容器 内温度	HVH-12A RETURN AIR (TE-1625A)：14.9℃ HVH-12A SUPPLY AIR (TE-1625F)：14.4℃ (3/29 11:00 現在)	HVH-12A RETURN AIR (TE-1625A)：17.3℃ HVH-12A SUPPLY AIR (TE-1625F)：17.0℃ (4/26 11:00 現在)	RETURN AIR DRYWELL COOLER (TE-16-114B)：20.9℃ SUPPLY AIR D/W COOLER HVH2-16B (TE-16-114G#1)：20.5℃ (3/29 11:00 現在)	RETURN AIR DRYWELL COOLER (TE-16-114B)：23.5℃ SUPPLY AIR D/W COOLER HVH2- 16B (TE-16-114G#1)：23.3℃ (4/26 11:00 現在)	格納容器空調機戻り空気温度 (TE-16-114A)：18.3℃ 格納容器空調機供給空気温度 (TE-16-114F#1)：16.8℃ (3/29 11:00 現在)	格納容器空調機戻り空気温度 (TE-16-114A)：19.9℃ 格納容器空調機供給空気温度 (TE-16-114F#1)：18.4℃ (4/26 11:00 現在)
原子炉格納容器 圧力	0.44kPa g (3/29 11:00 現在)	0.74kPa g (4/26 11:00 現在)	3.57kPa g (3/29 11:00 現在)	4.71kPa g (4/26 11:00 現在)	0.24kPa g (3/29 11:00 現在)	0.27kPa g (4/26 11:00 現在)
窒素封入流量 ※1	RPV：28.19Nm ³ /h PCV：-Nm ³ /h ※2 (3/29 11:00 現在)	RPV：28.06Nm ³ /h PCV：-Nm ³ /h ※2 (4/26 11:00 現在)	RPV：13.57Nm ³ /h PCV：-Nm ³ /h ※2 (3/29 11:00 現在)	RPV：14.09Nm ³ /h PCV：-Nm ³ /h ※2 (4/26 11:00 現在)	RPV：17.65Nm ³ /h PCV：-Nm ³ /h ※2 (3/29 11:00 現在)	RPV：17.63Nm ³ /h PCV：-Nm ³ /h ※2 (4/26 11:00 現在)
原子炉格納容器 水素濃度 ※3	A系：0.01vol% B系：0.00vol% (3/29 11:00 現在)	A系：0.00vol% B系：-vol% ※4 (4/26 11:00 現在)	A系：0.05vol% B系：0.06vol% (3/29 11:00 現在)	A系：0.03vol% B系：0.04vol% (4/26 11:00 現在)	A系：-vol% ※4 B系：0.05vol% (3/29 11:00 現在)	A系：0.05vol% B系：0.03vol% (4/26 11:00 現在)
原子炉格納容器 放射能濃度 (Xe135)	A系：1.12E-03Ba/cm ³ B系：1.06E-03Ba/cm ³ (3/29 11:00 現在)	A系：7.80E-03Ba/cm ³ B系：7.40E-03Ba/cm ³ (4/26 11:00 現在)	A系：ND(1.7E-01Ba/cm ³ 以下) B系：ND(1.5E-01Ba/cm ³ 以下) (3/29 11:00 現在)	A系：ND(1.7E-01Ba/cm ³ 以下) B系：ND(1.5E-01Ba/cm ³ 以下) (4/26 11:00 現在)	A系：- ※4 B系：ND(2.6E-01Ba/cm ³ 以下) (3/29 11:00 現在)	A系：ND(2.5E-01Ba/cm ³ 以下) B系：ND(2.6E-01Ba/cm ³ 以下) (4/26 11:00 現在)
使用済燃料 プール水温度	25.9℃ (3/29 11:00 現在)	29.2℃ (4/26 11:00 現在)	27.4℃ (3/29 11:00 現在)	30.8℃ (4/26 11:00 現在)	27.0℃ (3/29 11:00 現在)	29.9℃ (4/26 11:00 現在)
FPC 貯蔵タンク 水位	4.25m (3/29 11:00 現在)	2.49m (4/26 11:00 現在)	4.45m (3/29 11:00 現在)	2.91m (4/26 11:00 現在)	2.72m (3/29 11:00 現在)	3.91m (4/26 11:00 現在)

号機	4号機		5号機		6号機	
	3月29日	4月26日	3月29日	4月26日	3月29日	4月26日
使用済燃料 プール水温度	14.0℃ (3/29 11:00 現在)	17.2℃ (4/26 11:00 現在)	16.6℃ (3/29 11:00 現在)	20.6℃ (4/26 11:00 現在)	19.9℃ (3/29 11:00 現在)	16.5℃ (4/26 11:00 現在)
FPC 貯蔵タンク 水位	3.44m (3/29 11:00 現在)	3.27m (4/26 11:00 現在)	2.90m (3/29 11:00 現在)	2.75m (4/26 11:00 現在)	3.00m (3/29 11:00 現在)	2.75m (4/26 11:00 現在)

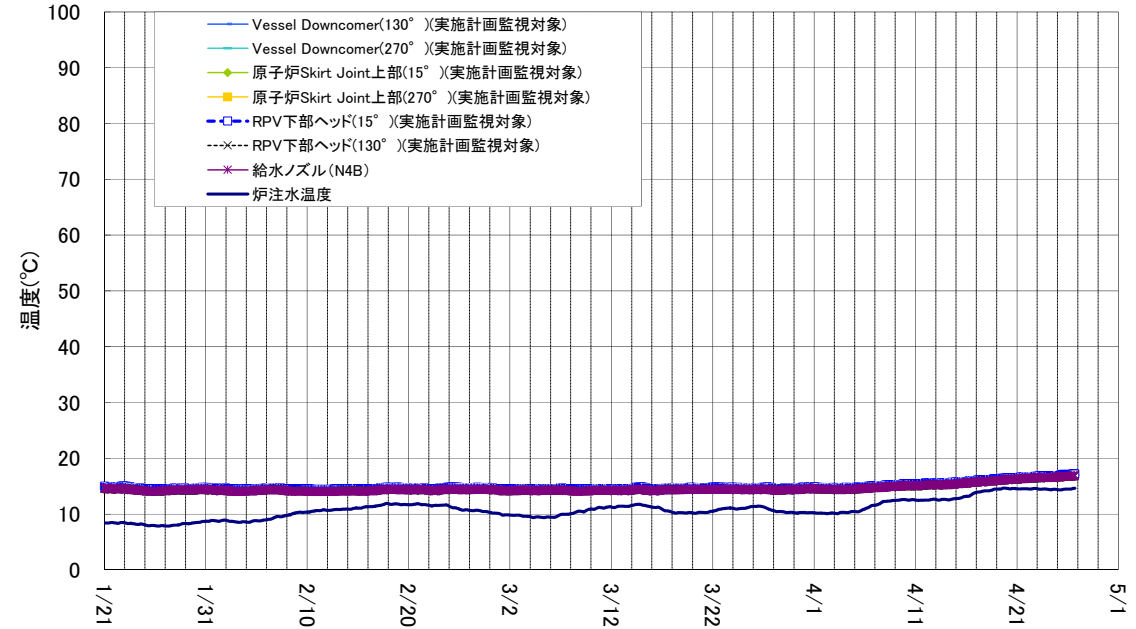
※1: 使用状態の温度・圧力で流量補正した値を記載する。
 ※2: 窒素封入停止中
 ※3: 指示値がマイナスの場合は0.00vol%と記載する。(水素濃度が極めて低い場合は、計器精度によりマイナス表示される場合があるため)
 ※4: 作業に伴いデータ欠測

※注水冷却を継続することにより、1～3号機の原子炉圧力容器底部温度、格納容器気相部温度は、号機や温度計の位置によって異なるものの、至近1ヶ月において、約15℃～約25℃で推移。
 格納容器内圧力や格納容器からの放射性物質の放出量等のパラメータについては有意な変動はなく、冷却状態の異常や臨界等の兆候は確認されていない。
 以上より、総合的に冷温停止状態を維持しており、原子炉が安定状態にあることを確認。

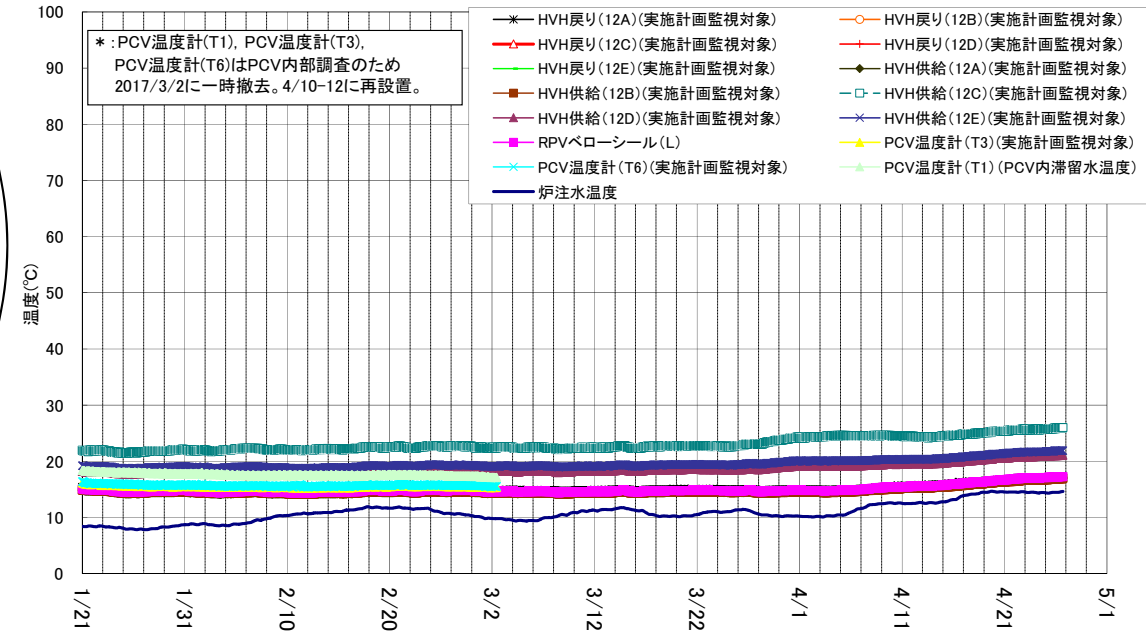
1号機



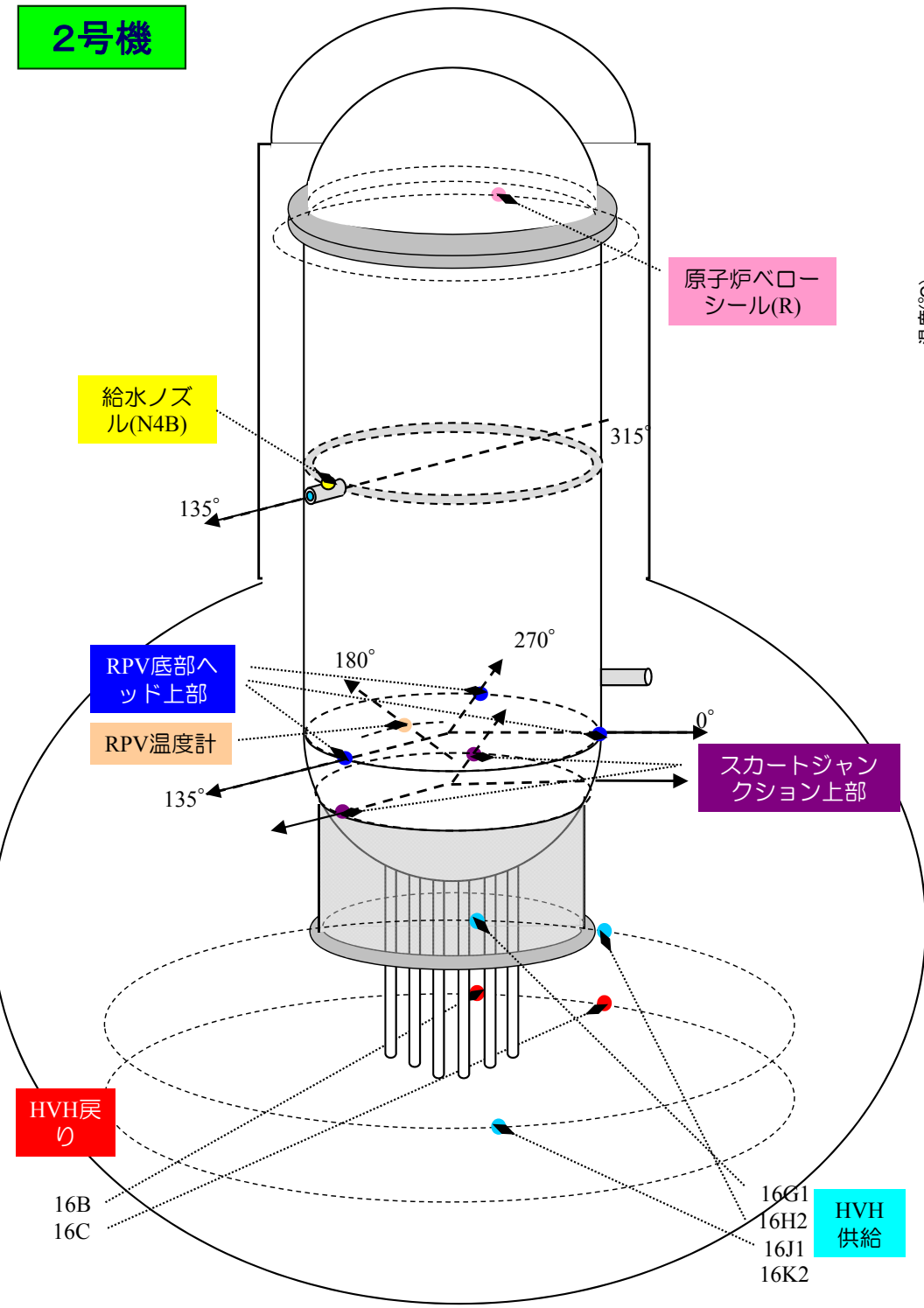
1号機 原子炉压力容器まわり温度(1/21~4/26)



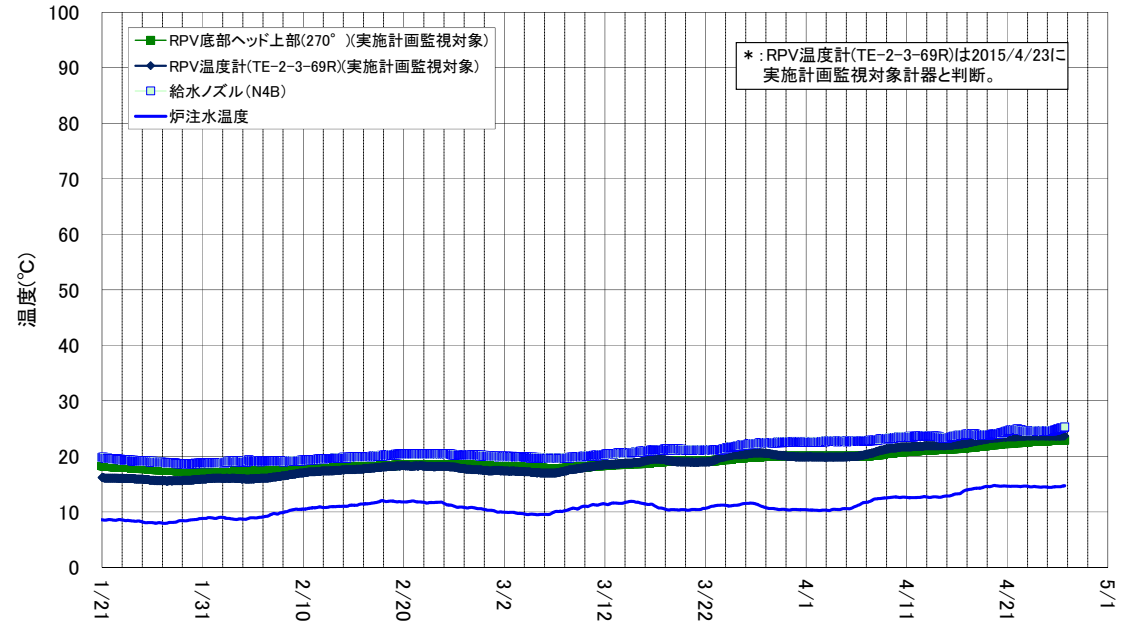
1号機 D/W雰囲気温度(1/21~4/26)



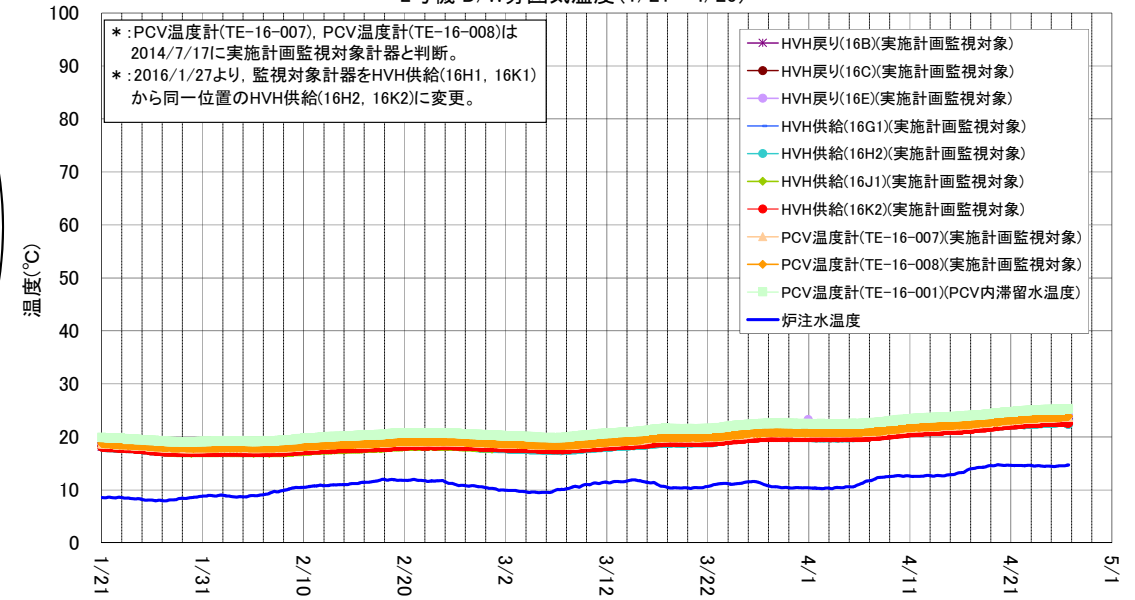
2号機



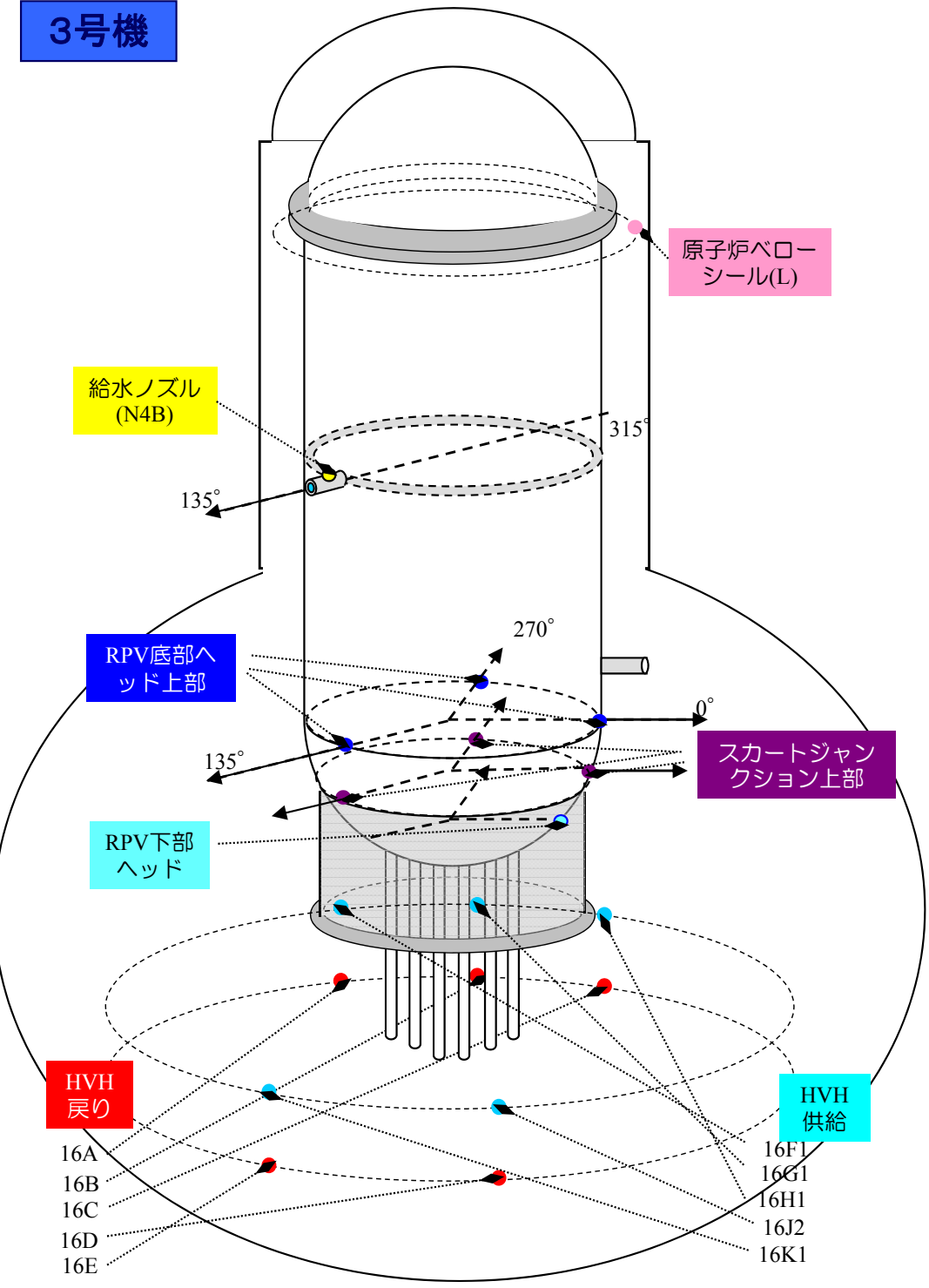
2号機 原子炉压力容器まわり温度(1/21~4/26)



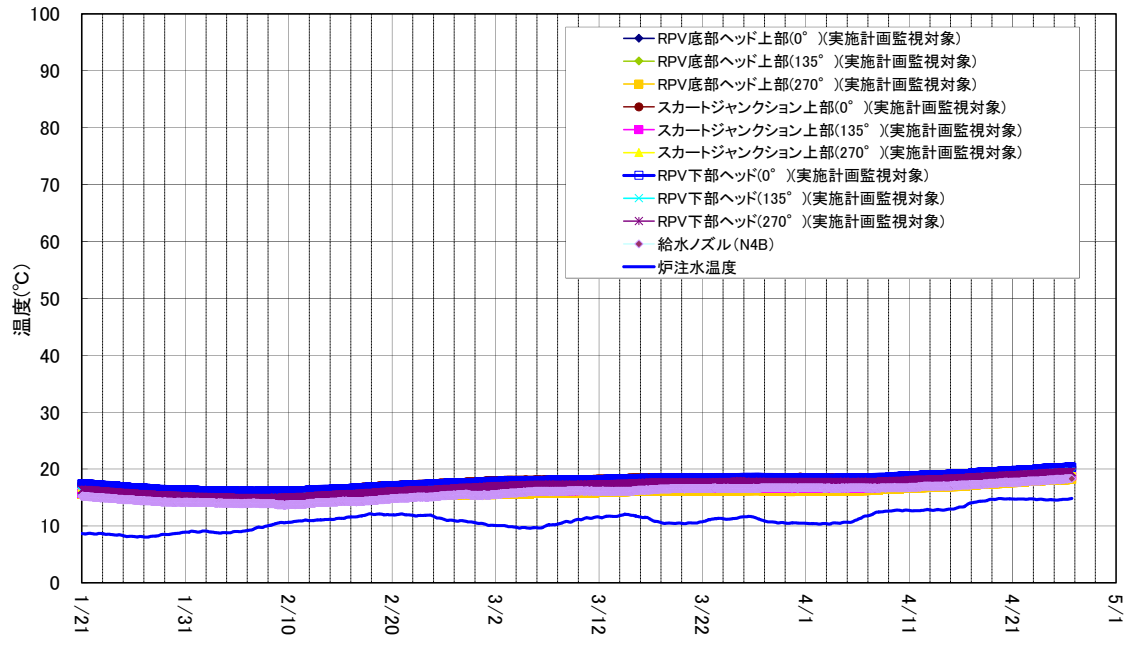
2号機 D/W雰囲気温度(1/21~4/26)



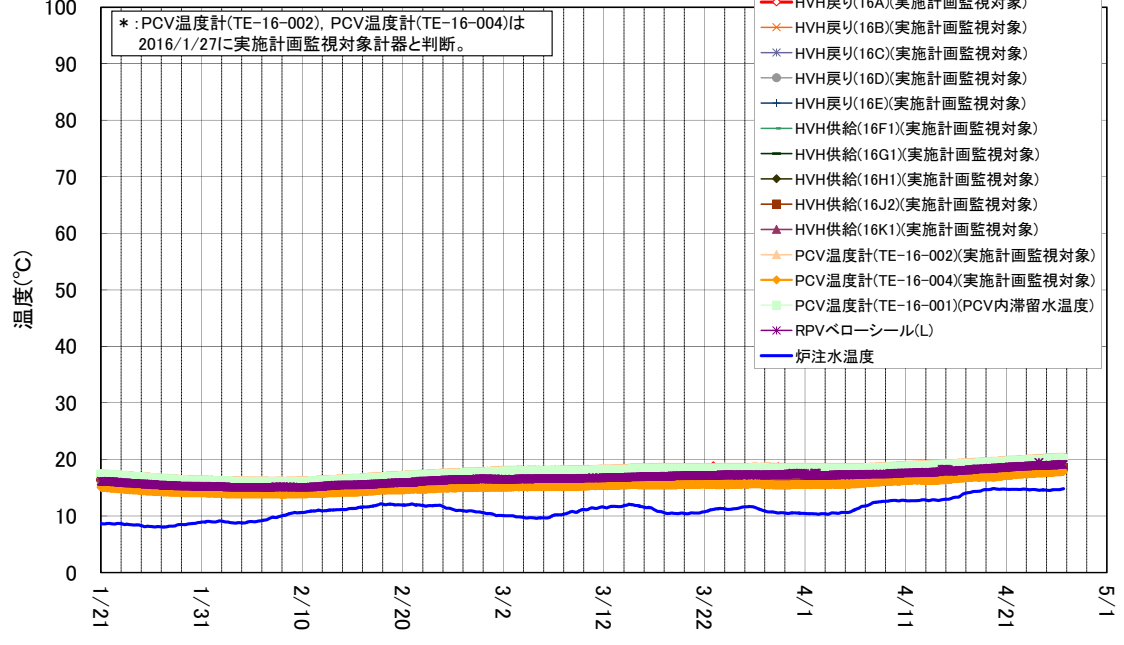
3号機



3号機 原子炉压力容器まわり温度(1/21~4/26)



3号機 D/W雰囲気温度(1/21~4/26)



滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

① 建屋内滞留水水位及び貯蔵量

- ・建屋内滞留水水位は運転上の制限を満足
- ・処理装置(第二セシウム吸着装置)は運転中

② 1~4号機タンク貯蔵量

- ・淡水化装置による処理により、RO処理水(淡水)及び濃縮塩水の貯蔵量は変動あり
- ・蒸発濃縮装置は全台停止中

③ 5, 6号機滞留水貯蔵量

- ・構内散水によりFエリアタンク貯蔵量は変動あり

④ 廃棄物発生量

- ・除染装置停止中のため、廃スラッジ貯蔵量は変動なし

① 建屋内滞留水水位及び貯蔵量

施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約6.610m ³	TP.443 (OP.1,900)
2号機	約14.430m ³	TP.1.127 (OP.2,579)
3号機	約14.550m ³	TP.1.003 (OP.2,440)
4号機	約14.890m ³	TP.1.044 (OP.2,483)
合計	約50.480m ³	

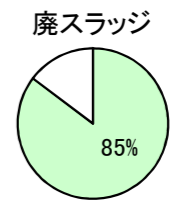
貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約12,330m ³	TP.1.739 (OP.3,101)
高温焼却炉建屋	約2,290m ³	TP.-350 (OP.1,096)
合計	約14,620m ³	

(合計):-2320[m³/4週] (合計):-1470[m³/週]

施設	貯蔵量	貯蔵容量
廃液供給タンク	768m ³	1,200m ³
SPT(B)	716m ³	3,100m ³

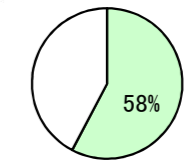
(合計):+94[m³/4週] (合計):+32[m³/週]

④ 廃棄物発生量

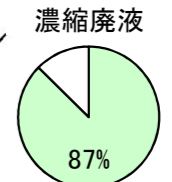


保管量:597/700[m³]*3

使用済ベッセル

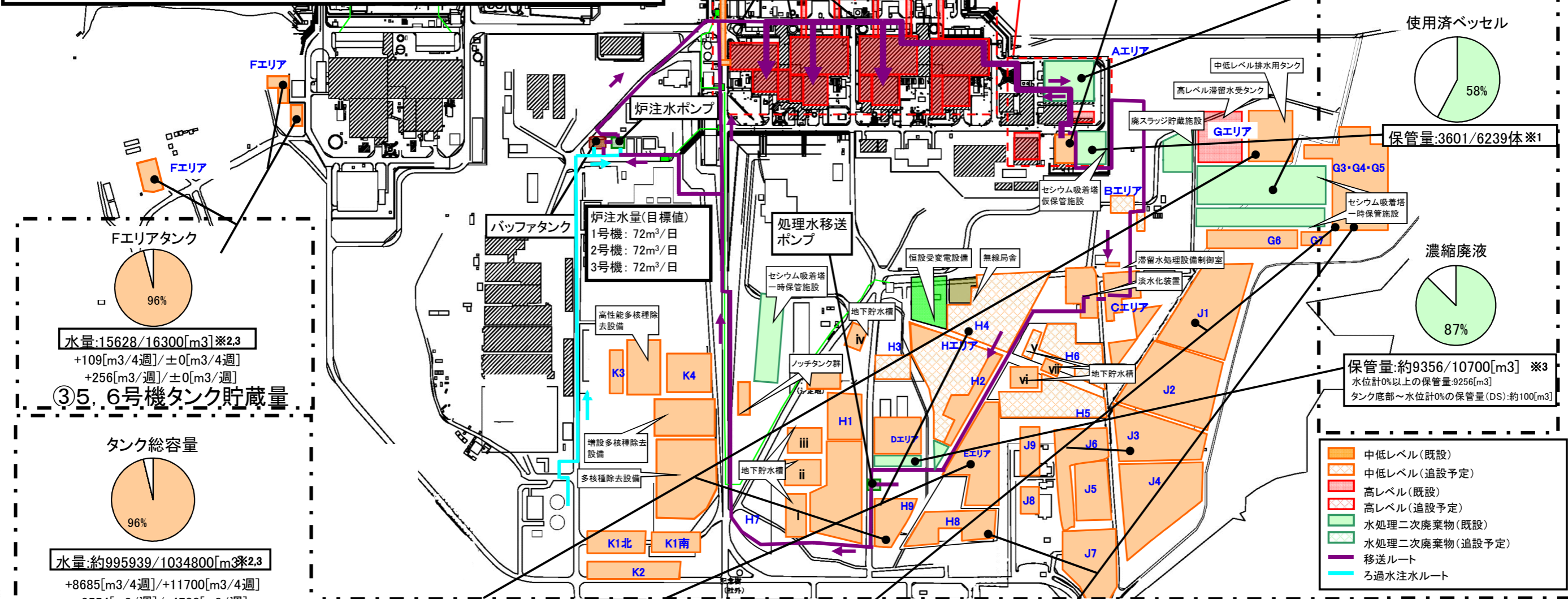


保管量:3601/6239体*1



保管量:約9356/10700[m³] *3
水位計0%以上の保管量:9256[m³]
タンク底部~水位計0%の保管量(DS):約100[m³]

- 中低レベル(既設)
- 中低レベル(追設予定)
- 高レベル(既設)
- 高レベル(追設予定)
- 水処理二次廃棄物(既設)
- 水処理二次廃棄物(追設予定)
- 移送ルート
- ろ過水注水ルート

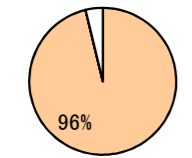


炉注水量(目標値)
1号機: 72m³/日
2号機: 72m³/日
3号機: 72m³/日

水量:15628/16300[m³]*2,3
+109[m³/4週]/±0[m³/4週]
+256[m³/週]/±0[m³/週]

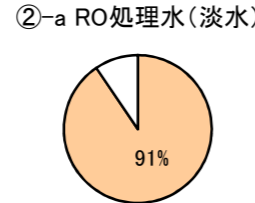
③ 5, 6号機タンク貯蔵量

タンク総容量

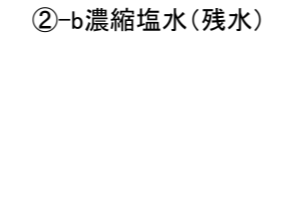


水量:約995939/1034800[m³]*2,3
+8685[m³/4週]/+11700[m³/4週]
+2554[m³/週]/+4700[m³/週]

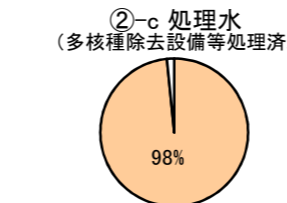
タンク貯蔵量合計(②+③)



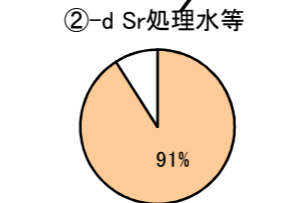
水量:約17107/18900[m³]*2,3
水位計0%以上の水量:16207[m³]
タンク底部~水位計0%の水量(DS):約900[m³]
+668[m³/4週]/±0[m³/4週]
+5[m³/週]/±0[m³/週]



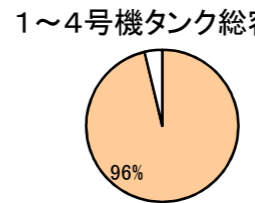
水量:約2000/5200[m³]*2,3
水位計0%以上の水量:約1600[m³]
タンク底部~水位計0%の水量(DS):約400[m³]
±0[m³/4週]/±0[m³/4週]
±0[m³/週]/±0[m³/週]



水量:約751488/763800[m³]*2,3,4,6
水位計0%以上の水量:750088[m³]
タンク底部~水位計0%の水量(DS):約1400[m³]
+14014[m³/4週]/+11700[m³/4週]
+2955[m³/週]/+4700[m³/週]



水量:約209716/230600[m³]*2,3
水位計0%以上の水量:205316[m³]
タンク底部~水位計0%の水量(DS):約
-6106[m³/4週]/±0[m³/4週]
-662[m³/週]/±0[m³/週]



1~4号機タンク総容量
水量:約980311/1018500[m³]*2,3,4
水位計0%以上の水量:973211[m³]
タンク底部~水位計0%の水量(DS):約7100[m³]
+8576[m³/4週]/+11700[m³/4週]
+2298[m³/週]/+4700[m³/週]

水量:約1046895[m³]
+6230[m³/4週] *5
+1210[m³/週]

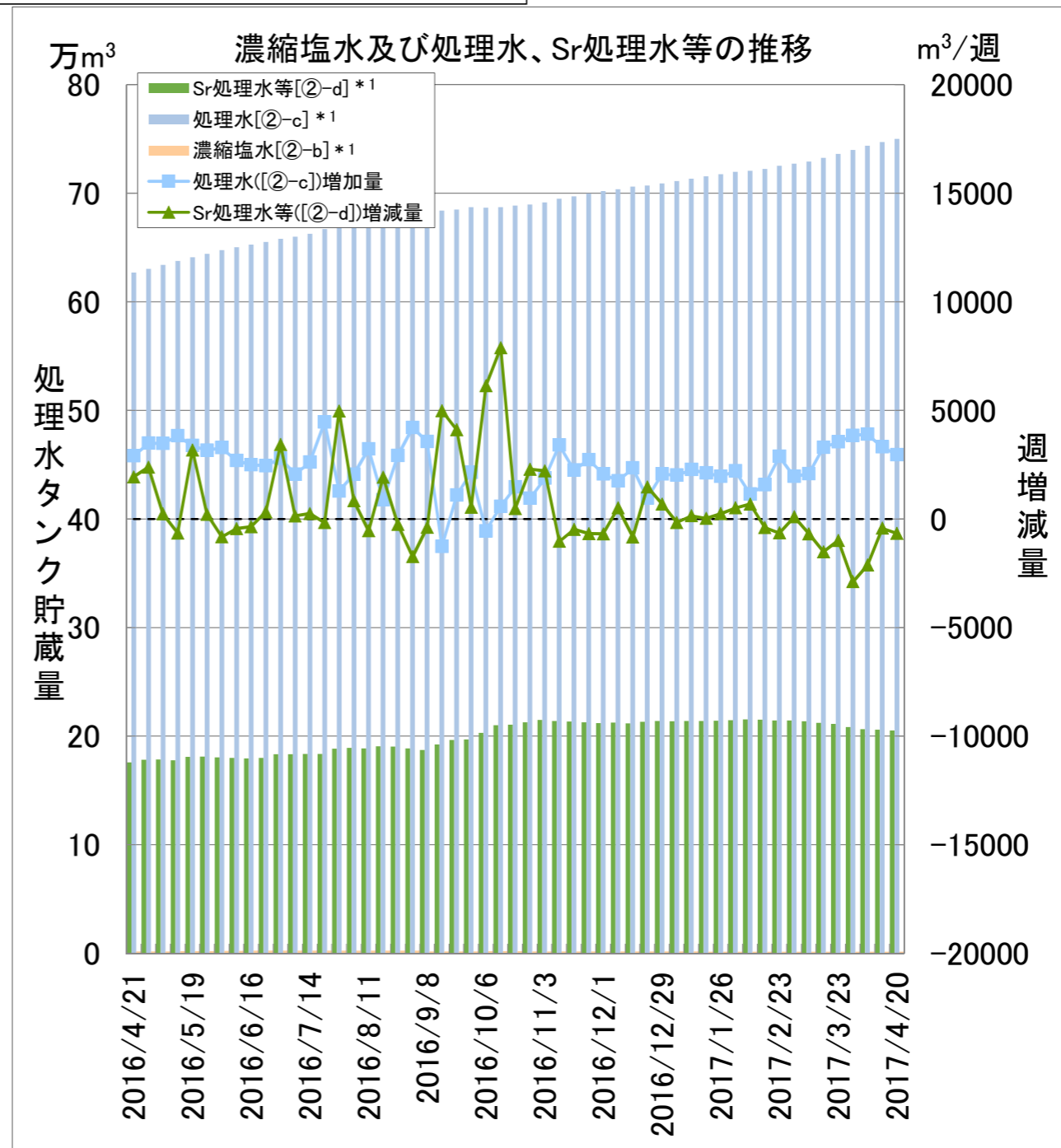
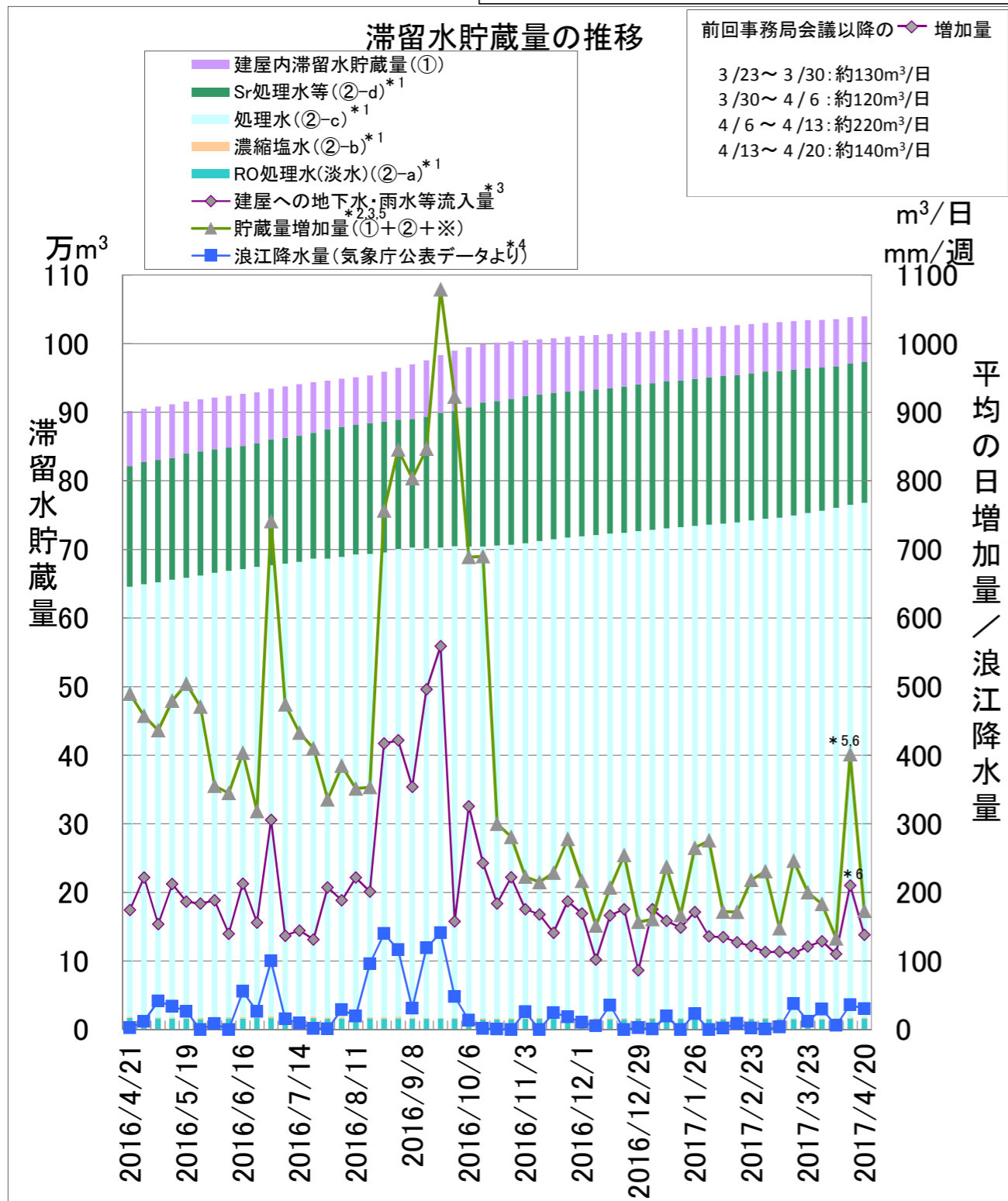
建屋内貯蔵量
+ 1~4号機タンク貯蔵量
(①+②)

② 1~4号機タンク貯蔵量

タンク堰内水の一時的貯留量(*4月24日時点の値を記載)
・ノッチタンク群 約300(±0[m³])/約600[m³]

※1 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル及び多核種除去設備の保管容器、処理カラム及びモバイル式処理装置使用済ベッセルを含む
※2 装置稼働中につき水位が静定しないため参考扱い
※3 貯蔵容量は運用上の上限を示す(タンクの貯蔵容量は10の位を切り捨てて表記)
※4 多核種除去設備等(ホット試験中)の処理済水を貯蔵するが、タンクの運用状況に応じて淡水や濃縮塩水を貯蔵
※5 ウェルポイント・地下水トレン(約100m³/週)、建屋へのその他移送量(約90m³/週)の合計約190m³/週を含む
※6 端数処理上、各移送量の総和と異なる場合がある

滞留水の貯蔵状況の推移



処理水	累積処理水	期間処理水		定格処理量
	[m ³]	[m ³ /週]	[m ³ /日] ^{注1)}	[m ³ /日]
既設多核種除去設備 ^{注2)}	345,571	1,010	144	750以上
増設多核種除去設備 ^{注2)}	333,903	1,945	278	750以上
高性能多核種除去設備	102,556	0	0	500以上
高性能 検証試験装置	1,128	0	0	50

Sr処理水等	期間処理水		定格処理量
	[m ³ /週]	[m ³ /日] ^{注1)}	[m ³ /日]
セシウム吸着装置	1,709	244	600
第二セシウム吸着装置			1200

注1) 週間の平均値
注2) 既設・増設多核種除去設備処理水の一部は、残水があるRO濃縮塩水タンクに移送し、Sr処理水等として貯

- ①: 建屋内滞留水貯蔵量 (1～4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B))
- ②: 1～4号機タンク貯蔵量
([②-aRO処理水(淡水)]+[②-b濃縮塩水]+[②-c処理水]+[②-dSr処理水等])
- ※: タンク底部から水位計0%までの水量 (DS)

- *1: 水位計0%以上の水量
- *2: 2017/1/19 濃縮塩水の残水量再評価により水量見直しを行ったため補正
- *3: 「建屋への地下水・雨水等流入量」、「貯蔵量増加量」の評価に用いている「建屋保有水増減量」は建屋水位計から算出しており、下記評価期間において建屋水位計の校正を実施したため、当該期間の「建屋への地下水・雨水等流入量」、「貯蔵量増加量」は想定される値より少く評価されている。
(2016/9/22～9/29:3号機タービン建屋)
- *4: 降水量は浪江地点(気象庁)を用いているが、欠測があったことから、富岡地点(気象庁)を代用(2016/4/14～4/21)
- *5: 気温変化に伴うタンク貯蔵量の変動の影響を含む
- *6: 集中RW建屋の貯蔵量算出に必要な、水位に応じた断面積(評価値)の不確かさによるものと推定(評価中)

各エリア別タンク一覧

(2017年4月20日 現在)

※下線部は前回報告からの変更点

1～4号機用貯蔵タンク

堰エリア	基数	1基あたり 容量(公 称) [m ³]	タンク型	貯蔵水	備 考
C東	5	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	Sr処理水等(M)	
C西	8	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	Sr処理水等(M)	
D	31	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(C)	
E	44	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	Sr処理水等(A, C)	
	5	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	濃縮塩水	残水処理中
G1	72	100	鋼製横置きタンク(溶接)※土中埋設	RO処理水(淡水)	
G3東	24	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
G3西	7	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
	33	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(C, R)	
G3北	6	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(C)	
G4南	16	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	Sr処理水等(M)	16基の内、2基は未使用
G4北	6	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
G5	17	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
G6北	19	500	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	Sr処理水等(M)	漏えいが確認されたため、1基使用停止 20-1=19
G6南	18	500	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	Sr処理水等(M)	
G7	10	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
H1	63	1220	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	
H1東	24	1220	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	
H2	17	2400	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	
H8北	5	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(C)	
H8南	11	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(R)	
H9	5	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	RO処理水(淡水)	
H9西	7	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	RO処理水(淡水)	
J1	90	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	
	2	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水 (高性能検証試験装置)	
	8	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(C)	
J2	42	2400	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	
J3	22	2400	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	
J4	30	2900	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	
	5	1160	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
J5	35	1235	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
J6	38	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	

堰エリア	基数	1基あたり 容量(公 称) [m3]	タンク型	貯蔵水	備 考
J7	42	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	
J8	9	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
J9	12	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	
K1北	12	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(高性能)	
K1南	10	1160	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(R)	
K2	2	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
	26	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(R)	
K3	12	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	
K4	35	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	
多核種除去 設備	4	1100	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	多核種除去設備 処理済水(既設)	
高性能多核 種除去設備	3	1235	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(高性能)	
増設多核種 除去設備	3	1235	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	
合計	895			Sr処理水等内訳 C:セシウム吸着装置等、M:モバイル型ストロンチウム除去装置等 R:RO濃縮水処理設備、A:多核種除去設備等	

濃縮廃液

D	10	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	濃縮廃液	
H2	3	100	鋼製横置きタンク(溶接)	濃縮廃液	

高濃度滞留水受けタンク

G1	28	100	鋼製横置きタンク(溶接)※土中埋設	高濃度滞留水	非常用の受けタンクであり、現在未使用
----	----	-----	-------------------	--------	--------------------

5. 6号機用貯蔵タンク

	基数	1基あたり 容量(公 称) [m3]	タンク型	貯蔵水	備 考
F2	6	35	鋼製角型タンク(溶接)	5, 6号機滞留水	Aタンク
	6	42	鋼製角型タンク(溶接)	5, 6号機滞留水	Aタンク
	4	110	鋼製角型タンク(溶接+フランジ接合)	5, 6号機滞留水	Bタンク
	5	160	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	5, 6号機滞留水	Cタンク
	2	200	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	5, 6号機滞留水	Cタンク
F1	3	299	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	5, 6号機滞留水	hijタンク
	18	508	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	5, 6号機滞留水	hijタンク
	5	1100	鋼製円筒型タンク(溶接)	5, 6号機滞留水	Kタンク

合計 49

(参考)

地下水バイパス用タンク

H3	9	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	地下水	
----	---	------	------------------	-----	--

汚染水等構内溜まり水の状況（2017.4.26時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]
1-1	2号機大物搬入口屋上	・2号機大物搬入口屋上	10m盤に存在する建屋	降雨量により変動	【2階】 Cs134: <1.0E1 Cs137: 2.1E1 全β: 2.6E1 H3: 1.0E2 (2015.11.2) 【1階】 Cs134: 1.1E1 Cs137: 4.0E1 全β: 4.1E1 H3: 1.1E2 (2015.11.2)
1-2	2号機R/B	2号機R/B	10m盤に存在する建屋	降雨量により変動	[上屋] Cs134: 200~340 Cs137: 650~1100 全β: 920~1900 Sr90: 10~20 H3: ND(<100) (2015.1.16)
2	5,6号機貯留タンク(フランジタンク)	・5,6号機貯留タンク(フランジタンク)	6号機北側	約10,000 (2015.4.16時点)	Cs134: 26 Cs137: 65 Co60: 13 (2014.2.6)
3	5,6号機貯留タンク(溶接タンク)	・5,6号機貯留タンク(溶接タンク)	6号機北側	約5000 (2015.4.16時点)	Cs134: 26 Cs137: 65 Co60: 13 (2014.2.6)
4	吸着塔一時保管施設(HIC)	・吸着塔一時保管施設(第二施設、第三施設)	・吸着塔一時保管施設(第二施設、第三施設)	0 (ボックスカルバート内の水は拭き取り実施済み)	【No.172(AJ5)蓋外周部(他調査中)】 Cs134: 1.9E+3 Cs137: 6.8E+3 全β: 3.0E+6 (2015.4.2)
5	No.1ろ過水タンク (RO濃縮塩水/溶接タンク)	・No.1ろ過水タンク (RO濃縮塩水/溶接タンク)	屋外(35m盤)	約1(一部1cm残水あり)	【No.1ろ過水タンク】 Cs-134: 2.3E+03 Cs-137: 4.3E+03 全β: 6.6E+07 (2013.11.19)
6	4000tノッチタンク (角型タンク)	・4000tノッチタンク	35m盤タンクエリア	約900 (2015.6.30時点)	【3000tノッチタンク】 水抜き済 【1000tノッチタンク】 Cs134: 1.7E1 Cs137: 6.1E1 全β: 9.6E4 (2015.6.3)
7	濃縮水タンク (蒸発濃縮装置濃廃水)	蒸発濃縮装置濃縮水用ノッチタンク (スラリー/濃縮水)	35m盤タンクエリア (Gエリア)	約85 (2015.6.9時点)	【蒸発濃縮装置濃廃水】 Cs134: 1.7E4 Cs137: 2.5E4 全β: 4.7E8 (2011.12.20)
8	淡水貯留タンク (G1エリア地下タンク)	・淡水貯留タンク (横置きタンク)	35m盤タンクエリア	約6000 (2015.4.16時点)	【淡水化装置出口水】 H3: 8.7E5 全β: 1.5E4 (2012.9.18)

汚染水等構内溜まり水の状況（2017.4.26時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]
9	5, 6号機逆洗弁ピット及び吐出弁ピット	・5号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット ・6号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット ・5号機逆洗弁ピット ・6号機逆洗弁ピット	5, 6号機スクリーン近傍	(5号機吐出弁ピット) 約550 (6号機吐出弁ピット) 約850	【5号機吐出弁ピット】 (2015.10) Cs134: 1.3 Cs137: 4.8 【6号機吐出弁ピット】 (2015.10) Cs134: 1.1 Cs137: 5.6 【5号逆洗弁ピット】 (2015.10) Cs134: 5.1 Cs137: 2.4E+1 【6号逆洗弁ピット】 (2015.10) Cs134: 4.3 Cs137: 1.7E+1
10	1～4号機T/B屋根	・1号機T/B ・2号機T/B	10m盤に存在する建屋	降雨量により変動	【1号機T/B上屋】 Cs134: 250～740 Cs137: 980～2700 全β: 1400～6900 (2014.11.26) 【2号機T/B上屋】 Cs134: 120～3000 Cs137: 420～10,000 全β: 500～29,000 (2014.12.1)
11	1号CSTタンク (溶接タンク)	・1号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(10m盤)	約740 (2016.10.26)	Cs134: 2.9E+4 Cs137: 1.9E+5 全β: 2.2E+5 (2016.11.7)
12	2号CSTタンク (溶接タンク)	・2号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(10m盤)	約2260 (2015.6.17現在)	Cs134: 1.7E+4 Cs137: 5.7E+4 全β: 4.2E+6 (2015.3.23)
13	3号CSTタンク (溶接タンク)	・3号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(10m盤)	約2120 (2015.6.17現在)	【CST入口水(淡水化装置出口水)】 (2017.2.8) (2017.3.8) H3: 4.6E+5 6.9E+5 Sr90: ND ND 【CST貯留水】 (2015.7.16) Cs134: 2.1E+3 Cs137: 8.0E+3
14	4号CSTタンク (溶接タンク)	4号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(10m盤)	約2000	【プラント復水】
15	地下貯水槽	地下貯水槽No. 1	35m盤タンクエリア	一※ (2016.4.21)	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 1.1E6 1.1E6 (2017.2.24) (2017.3.24) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 1.4E5 1.4E5 (2017.3.22) (2017.4.19) H3: 3.1E2 ND (2017.3.1) (2017.4.5)
16	地下貯水槽	地下貯水槽No. 2	35m盤タンクエリア	約300 (2017.3.29)	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 1.7E6 2.1E6 (2017.2.24) (2017.3.24) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 1.1E5 2.7E4 (2017.3.22) (2017.4.19) H3: 3.3E3 1.3E3 (2017.3.1) (2017.4.5)
17	地下貯水槽	地下貯水槽No. 3	35m盤タンクエリア	約150 (2016.4.21)	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 3.7E6 3.6E6 (2017.2.24) (2017.3.24) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: 4.4E4 4.1E4 (2017.2.23) (2017.4.20) H3: 3.9E2 5.7E2 (2017.3.2) (2017.4.6)

※: 水位計の計測限界水深未満(残水あり)

汚染水等構内溜まり水の状況（2017.4.26時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]
18	地下貯水槽	地下貯水槽No. 4	35m盤タンクエリア	—※ (2016.4.21)	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β: 3.9E4 (2016.9.6)
19	地下貯水槽	地下貯水槽No. 5	35m盤タンクエリア	— 二 (撤去作業中) —※ (2016.4.21)	【使用実績なし(水張試験のみ)】 — 全β: 2.7E1 (2016.9.6)
20	地下貯水槽	地下貯水槽No. 6	35m盤タンクエリア	約120 (2016.4.21)	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 1.1E7 (2016.9.6) (参考: 漏えい検知孔水) 全β: ND 2.8E1 (2017.1.26) (2017.4.20) H3: ND (2017.1.5)
21	地下貯水槽	地下貯水槽No. 7	35m盤タンクエリア	約90 (2016.4.21)	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β: 1.0E2 (2016.9.6)
22	1-4号建屋接続トレンチ	・1号機コントロールケーブルダクト ・集中環境施設廃棄物系共通配管ダクト(2号機廃棄物系共通配管ダクト) ・1号機薬品タンク連絡ダクト 等	1~4号機周辺	約2~1200 (2016.10~2017.1) 約1~1200 (2015.10~2016.1)	Cs134: ND~4.0E2 1.4E1~2.1E2 Cs137: 2.6E1~1.7E3 8.1E1~1.3E3 全β: 4.9E1~2.8E3 1.0E0~1.6E3 H3: ND~6.5E2 ND~5.7E2 (2015.10~2016.1) (2016.10~2017.1)
23	2~4号機DG連絡ダクト	・2~4号機DG連絡ダクト	2~4号機山側	約1600 (2015.11)	Cs134: 5.8E2 1.2E1 Cs137: 2.4E3 8.1E1 全β: 2.2E3 8.3E1 H3: ND (2015.11) ND (2016.10)
24-1	1号機海水配管トレンチ	・1号機海水配管トレンチ	1号機タービン建屋海側	約3000	Cs134: 6.0E0 4.4E0 Cs137: 3.6E1 3.8E1 全β: 4.0E1 3.2E1 (2017.2.22) (2017.3.27)
24-2	2号機海水配管トレンチ	・2号機海水配管トレンチ	2号機タービン建屋海側	0 (2015.6.30時点)	—
25-1	3号機海水配管トレンチ	・3号機海水配管トレンチ	3号機タービン建屋海側	0 ^(注) (2015.7.30時点) (注)立坑D上部を除く	— 【立坑D】 Cs134: 5.6E5 Cs137: 1.9E6 全β: 4.2E6 H3: 1.5E5 (2015.2.27)
25-2	4号機海水配管トレンチ	・4号機海水配管トレンチ	4号機タービン建屋海側	0 ^(注) (2015.12) (注)建屋接続部及び建屋接続部近傍の開口部を除く	—
26	3号機起動用変圧器ケーブルダクト	・3号機起動用変圧器ケーブルダクト	3号機山側	約790 (2016.10) 約690 (2015.11)	Cs134: 2.3E2 1.4E2 Cs137: 9.7E2 8.4E2 全β: 1.3E3 1.1E3 H3: ND (2015.11) ND (2016.10)
27	廃棄物処理建屋間連絡ダクト	・廃棄物処理建屋間連絡ダクト	プロセス主建屋北側	約6 (2016.10) 約1 (2016.9)	Cs134: 1.0E3 2.1E3 Cs137: 5.9E3 1.2E4 全β: 6.9E3 1.5E4 (2016.9) (2016.10)
28	1-4号建屋未接続トレンチ	・2号機変圧器防災用トレンチ ・消火配管トレンチ(3号機東側) ・1号機主変圧器ケーブルダクト ・1号機廃液サージタンク連絡ダクト ・1号機オフガス配管ダクト 等	1-4号機周辺	約7~820 (2015.10~2016.1)	Cs134: ND~2.2E2 Cs137: ND~9.2E2 全β: 5.1E1~1.4E3 H3: ND~3.1E2 (2015.10~2016.1)

※: 水位計の計測限界水深未満(残水あり)

汚染水等構内溜まり水の状況（2017.4.26時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]
29	1～4号機サブドレンピット No.15,16(未復旧ピット)	・サブドレンピットNo.15,16	1～4号機周辺 「未復旧」	約20m ³	No.16 Cs134:3.0E5 Cs137: 2.2E6 全β: 2.4E6 H-3: 2.1E4 (2017.2.23)
30	その他1～4号機サブドレン(ディー プウェル含む)(未復旧ピット)	・1号機～4号機サブドレン	1～4号機周辺 「未復旧」	約15/ピット	No.47,48 Cs134:ND～3.9E1 Cs137:4.8E1～9.6E1 全β:7.9E1～2.8E2 H-3:ND (2014.11.10)
31-1	1～4号機逆洗弁ピット	・1号機逆洗弁ピット ・2号機逆洗弁ピット ・3号機逆洗弁ピット ・4号機逆洗弁ピット	1～4号タービン建屋海 側	(1号機逆洗弁ピット) 約300 (2016.7.11) (2号機逆洗弁ピット) 約900 (2016.7.11) (3号機逆洗弁ピット) 約700 (2016.7.11) (4号機逆洗弁ピット) 約1300 (2016.7.11)	(1号機逆洗弁ピット)(2016.5.18) Cs134:4.4E3 Cs137:2.5E4 全β: 2.9E4 H3: 2.6E2 (2号機逆洗弁ピット)(2016.5.18) Cs134:1.4E2 Cs137:8.0E2 全β: 9.3E2 H3: ND (3号機逆洗弁ピット)(2016.5.18) Cs134:2.4E3 Cs137:1.2E4 全β: 1.5E4 H3: 5.3E2 (4号機逆洗弁ピット)(2016.5.18) Cs134:2.3E2 Cs137:1.2E3 全β: 1.3E3 H3: ND
31-2	1-4号機吐出弁ピット	・1号機ポンプ室循環水ポンプ吐出 弁ピット ・4号機ポンプ室循環水ポンプ吐出 弁ピット	1～4号タービン建屋海 側	【1号機吐出弁ピット】 0 (2015.11) 【4号機吐出弁ピット】 0 (2015.10)	【1号機吐出弁ピット】 — 【4号機吐出弁ピット】 —
32	1号機放水路 (出口を閉塞済)	・1号機放水路 (出口を閉塞済)	1～4号タービン建屋海 側	約3800	【放水路上流側立坑】 (2017.3.24) (2017.4.21) Cs134:6.6E2 2.2E2 Cs137:4.3E3 1.3E3 全β:5.7E3 1.6E3 H3:5.6E2 1.5E2
33	2号機放水路 (出口を閉塞済)	・2号機放水路 (出口を閉塞済)	2-4号機タービン建屋 海側	約3000	【放水路上流側立坑】 (2017.3.24) (2017.4.21) Cs134:1.5E2 4.3E2 Cs137:9.9E2 2.9E3 全β:2.5E3 3.7E3 H3:2.1E2 1.6E2
34	3号機放水路 (出口を閉塞済)	・3号機放水路 (出口を閉塞済)	3-4号機タービン建屋 海側	約600	Cs134:2.6E2 Cs137:1.1E3 全β:1.7E3 H3:9.0E2 (2015.6.10)
35	キャスク保管建屋	・キャスク保管建屋	物揚場 西側	約4500	Cs134:7.2 Cs137:23 I-131:<4.3 Co-60:<4.2 全γ放射能:3.1E+1 (2014.5.23)
36	5号CSTタンク (溶接タンク)	・5号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(10m盤)	約1000	Cs134:ND Cs137:ND Co60:1.922E+01 (2015.6.4)
37	6号CSTタンク (溶接タンク)	・6号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(10m盤)	約1250	Cs134:ND Cs137:ND Co60:5.254E+02 (2015.6.16)
38	5/6号他 トレンチ	・5号機海水配管トレンチ ・5・6号機スチームドレン配管トレン チ ・5号機重油配管トレンチ(東側) ・5号機放射性流体用配管ダクト ・5号機主変圧器ケーブルダクト 等	5～6号機周辺	約1～1900 (2015.10～2016.1)	Cs134:ND～2.2E2 Cs137:ND～9.9E2 (2015.10～2016.1)

汚染水等構内溜まり水の状況（2017.4.26時点）

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]
39	5, 6号機サブドレン	・5,6号機サブドレンピット	5～6号機周辺 ※「復旧対象」	約15/ピット	Cs134: ND～0.34 Cs134: ND～0.95 全β: ND～2.6 H-3: ND～25 (採水期間: 2014.8～2014.11)
40	キャスク保管建屋サブドレン	・キャスク保管建屋サブドレン	物揚場 西側	約15/ピット	Cs134: 1.0E+1 Cs137: 1.4E+1 Co-60: <6.0E-01 全γ放射能: 2.4E+1 (2012.1.18)
41	SPTタンク(1～4号)(A) (溶接タンク)	・SPTタンク(1～4号)(A) (溶接タンク)	SPT建屋	約2800 (2015.3.25時点)	Cs134: 8.0E+4 Cs137: 1.6E+5 Co60: 6.5E+2 (2013.8.27)
42	集中ラド周りサブドレン	・集中ラド周りサブドレン	主プロセス建屋等各建屋周辺	約15/ピット	Cs134: ND～53 Cs137: ND～130 全β: ND～240 H-3: 14～210 (採水期間: 2013.12.12～2013.12.19)
43	メガフロート	・メガフロート	港湾内	約9000 (2017.3)	No.5VOID Cs134: ND Cs137: 2.7 Sr90: ND H3: ND (2017.2.16)
44	純水タンクNo.1	・純水タンク	屋外(10M盤)	約850	Cs134: 2.1 Cs137: 7.2 全β: 12.2 H-3: ND (2015.5.29)
45	5/6号機建屋滞留水	・5/6号機建屋滞留水	5～6号機	約6000 (2015.6時点)	【5号機】 Cs134(ND)、Cs137(2)、H3(132)、全β(ND) (2015.6.17) 【6号機】 Cs134(5.2)、Cs137(17)、H3(531)、全β(138) (2015.6.18)
46	排気筒ドレンサンプルピット	・1/2号排気筒ドレンサンプルピット ・3/4号排気筒ドレンサンプルピット ・5/6号排気筒ドレンサンプルピット ・集中RW排気筒ドレンサンプルピット	1～4号機周辺 5/6号機周辺	1/2号サンプルピット 約0.3※ 3/4号サンプルピット 約2 5/6号サンプルピット 約5 集中Rwサンプルピット 約20 ※適宜溜まり水の移送を実施	【1/2号サンプルピット】 (2016.11.28) (2017.3.14) 全β: 2.6E7 2.6E7 Cs134: 3.2E6 2.3E6 Cs137: 2.2E7 1.7E7 【3/4号サンプルピット】 (2016.3.17) 全β: 1.3E3 Cs134: 2.4E2 Cs137: 1.1E3 【5/6号サンプルピット】 (2015.9.16) 全β: 7.6E1 Cs134: 1.2E1 Cs137: 4.7E1 【集中Rwサンプルピット】 (2015.12.17) 全β: 7.6E2 Cs134: 1.5E2 Cs137: 6.6E2

建屋滞留水貯蔵量の見直しについて

2017年4月27日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1-4号建屋滞留水貯蔵量の見直しについて

■ 背景・概要

- これまでの水処理週報では、各建屋の配置図に基づき建屋滞留水貯蔵量の概算評価を実施。
- 今後の建屋滞留水貯蔵量の低減に伴い、貯蔵量をより精緻に評価するため、以下の4項目について見直しを実施する。

3/30時点の水処理週報基準

項目	内容	変化量
①1号T/B地下階 床スラブ部の算出見直し	滞留水貯蔵量として加算していた床スラブ分の体積を貯蔵量から除外	約-4,280 m ³
②2,3,4号T/B 海水系配管等トレンチの追加	床面下に設置されている海水系配管等トレンチ内の貯蔵量を見込んでいなかったため追加	約+5,600m ³
③各R/B トラス(S/C)体積の適正化	滞留水中に占めるS/C体積の算出方法を概算評価から水位を変数とする詳細評価に変更	約-2,440 m ³
④4号Rw/B 南東吸着塔エリアの追加	貯蔵エリアとして見込んでいなかったため追加	約+320 m ³

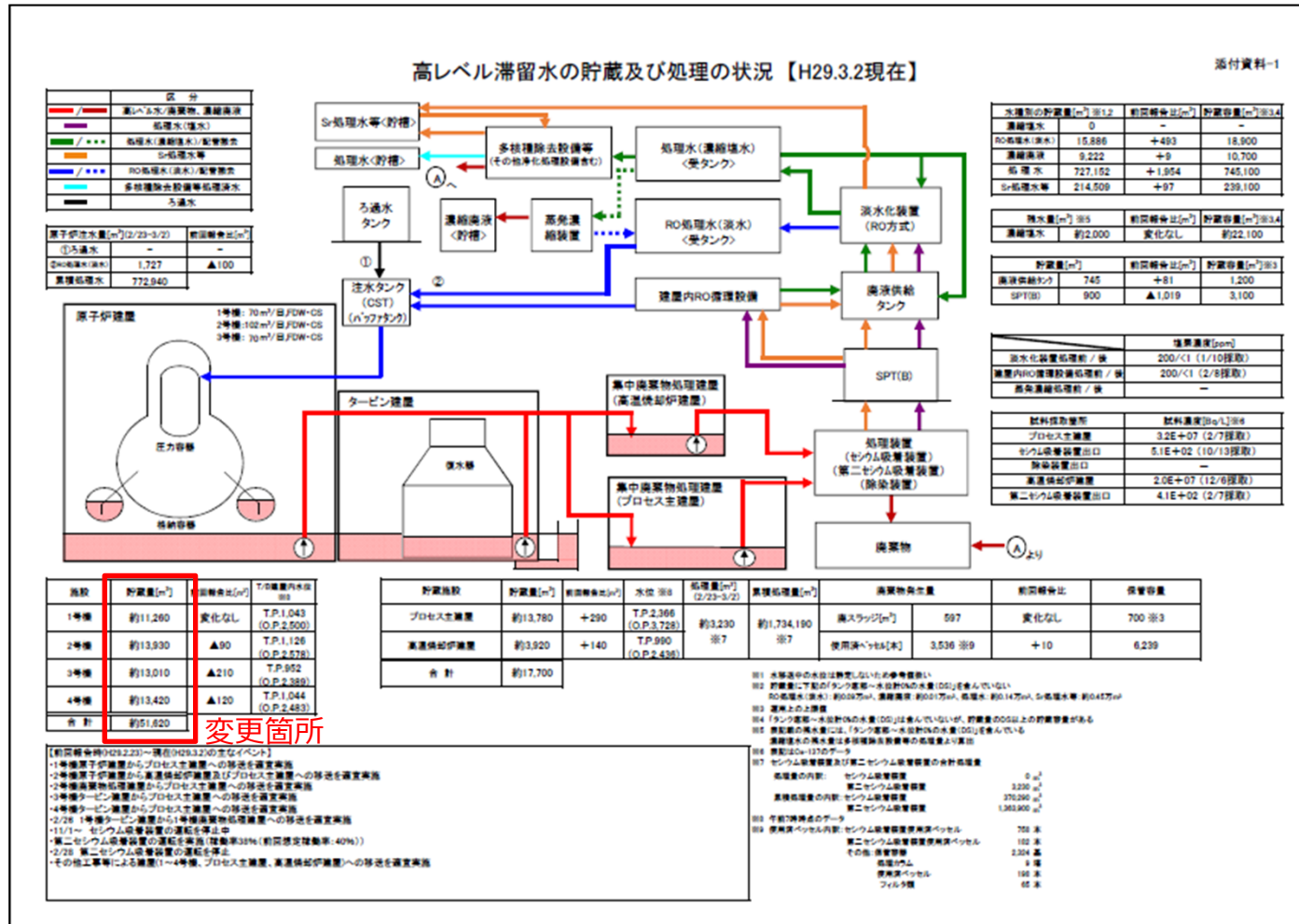
- ①～④の見直しにより貯蔵量はおよそ-800m³となり建屋貯蔵量(3/30)は下表の通りとなる。

号機	変更前	変更後	変化量	トータル変化量
1号	10,900 m ³	6,580 m ³	-4,320 m ³	-800 m ³
2号	13,900 m ³	14,750 m ³	+850 m ³	
3号	13,140 m ³	14,310 m ³	+1,170 m ³	
4号	13,320 m ³	14,820 m ³	+1,500 m ³	

今回の変更で、滞留水総インベントリ量、タンク計画への影響は無し

■ 水処理週報の変更箇所について

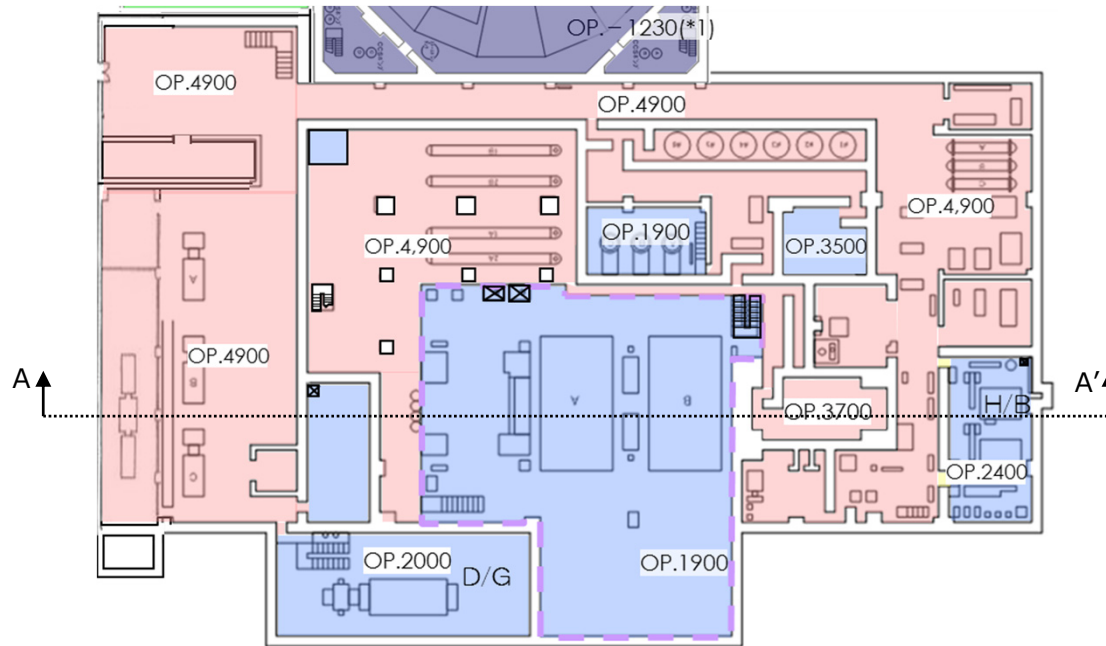
➤ 変更箇所は報告時点の滞留水貯蔵及び処理の状況が記載されている添付資料-1の左下1-4号機の貯蔵量



①1号T/B地下階床スラブ部の見直しについて

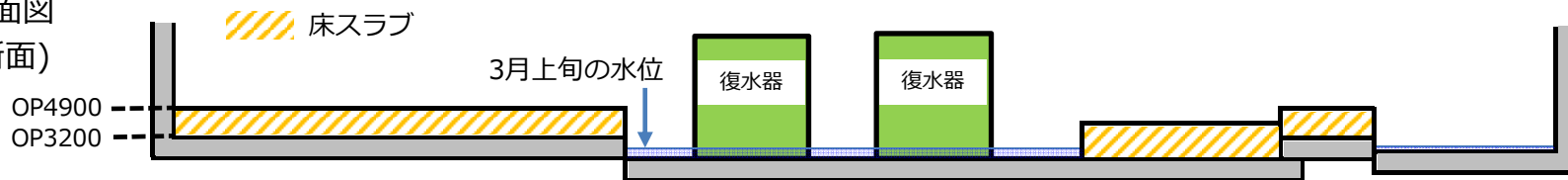
■ 1号T/B地下階床スラブ部の見直しについて

- 水処理週報作成当初(H23)、赤色ハッチング箇所の床スラブ分の体積を貯蔵量に加算。
- 当初加算していた床スラブ体積分の貯蔵量が、水位が低下したにも関わらず貯蔵量として見込まれていたため、今後は貯蔵量から除外。
- 見直しにより貯蔵量は-4,280 m³(3/30基準)。



復水器設置エリア、復水ポンプ室、D/G室及びH/B室等のみ水が滞留

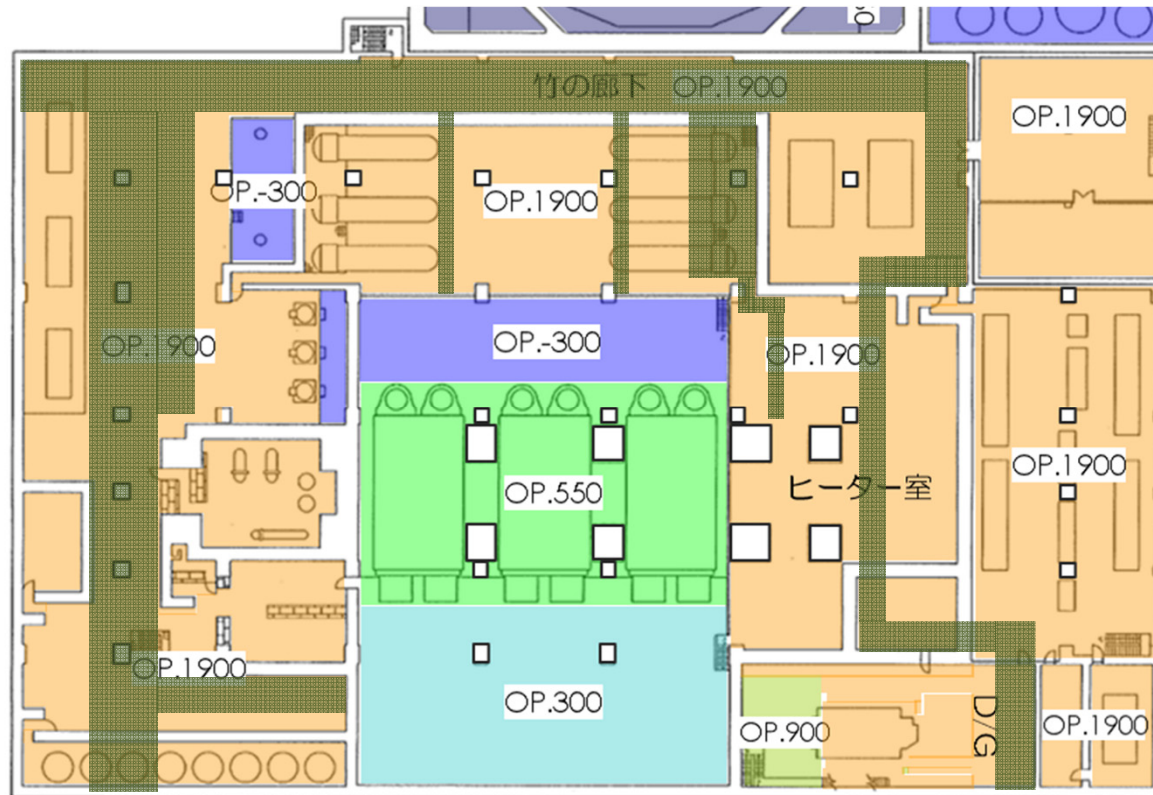
建屋断面図
(A-A'断面)



②2,3,4号T/B 海水系配管等トレンチ内の貯蔵水追加について

■ 海水系配管等トレンチ内貯蔵水の追加について

- 2～4号T/BのOP-300～1900エリアにある海水系配管等が格納されているトレンチ内の容積を見込んでいなかったため追加。なお、1号T/Bには当該トレンチはなく、建屋外へ繋がっている2～4号海水配管トレンチの埋立ては完了している。
- 下記に2号T/Bのトレンチ配置図を示す。3、4号も同様の配置。
- 追加により貯蔵量+5,600 m³(3/30基準)。



各T/Bのトレンチ容量(3/2基準)

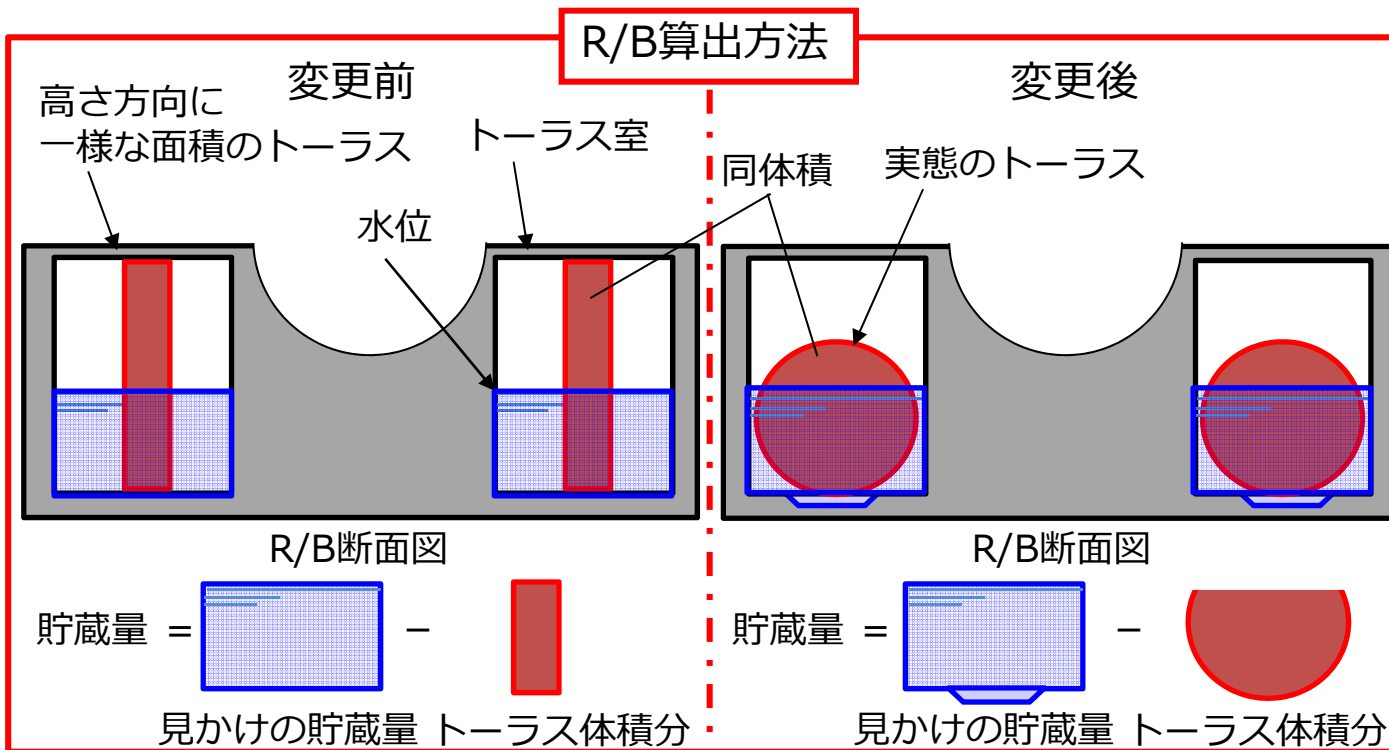
号機	トレンチ容量
2号	1,700 m ³
3号	1,900 m ³
4号	2,000 m ³
合計	+5,600 m ³

2号T/B 海水系配管等トレンチ配置図 ■■■ : トレンチ部

③各R/B トーラス(S/C)体積の算出方法の適正化について

■ トーラス(S/C)体積の算出方法の適正化

- 従来のR/B貯蔵水量は、トーラス(S/C)を高さ方向に一様な面積をもつ設備として概算。
- 今回、水位変動による貯蔵水量の変化を正確に反映するため、滞留水中に占めるトーラス(S/C)体積を水位を変数とする詳細評価に変更。
- 2~4号機については、トーラス室床面のくぼみ部を見込む。
- 見直しにより貯蔵量 $-2,440 \text{ m}^3$ (3/30基準)。



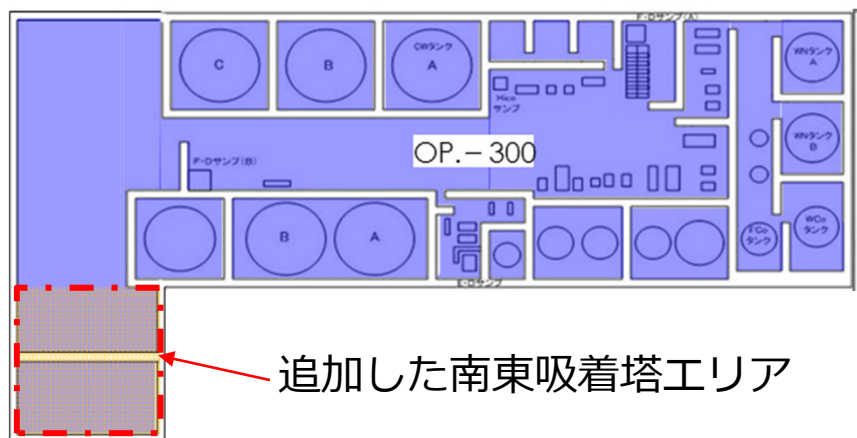
各建屋の変化量(3/30基準)

号機	変化量
1号	-40 m^3
2号	-840 m^3
3号	-730 m^3
4号	-830 m^3
合計	$-2,440 \text{ m}^3$

④4号Rw/B南東吸着塔エリアの貯蔵水追加について

■ 4号Rw/B南東吸着塔エリアの貯蔵水追加について

- 4号Rw/B地下にある南東吸着塔エリアは、滞留水の貯蔵エリアとして見込んでいなかったため追加。なお、1～3号Rw/B地下には当該エリアはない。
- 追加により貯蔵量+320 m³(3/30基準)。



4号Rw/B地下1階

- 右図滞留水貯蔵量の推移より、4/6-4/13の期間において、建屋への地下水・雨水等流入量及び貯蔵量増加量が増大。
- 建屋への地下水・雨水等流入量の増大は、水収支計算上、集中Rw建屋の貯蔵量の算出方法において必要な、水位に応じた断面積(評価値)の不確かさがあり、これにより生じたものと推定。
- 貯蔵量増加量に関しては、上記に加え、気温上昇に伴うタンク貯蔵量変動によるものと推定。
- 現在、集中Rw建屋滞留水貯蔵量のより確からしい算出方法を評価中。

